

HogeHoge における Hoge に関する研究

内藤 峻

関西大学 総合情報学部

1. はじめに

近年、様々な情報が電子化されネットワーク上に蓄積されている。それに伴いこれらの情報を利用して、意思決定や問題解決に役立てる試みがなされている。しかし、情報は情報洪水と言われるほど増加しており現在の検索技術、言うなれば「情報の在処を見つける」ものではユーザの要求に十分に答えることができない。そこで、私はこのようなユーザの要求に応えるために「情報を理解する」検索技術を提案する。

2. 先行研究

3. 卒論にむけて

3.1 本研究の着眼点

3.2 研究進捗状況

現在、図 1 ならびに図?? に示すような二つの実験環境を作成し、表 1 に示す 4 群を対象に、被験者間実験をデザインしている。実験課題には、迷路上で 1 名の逃亡者を 3 名の追跡者が追いかけて捕まえるタイプの課題（迷路課題）を用いる。現在、本課題のプログラムを Processing で作成しており、クライアント部が完成、サーバ部も 8 割の実装が完了している。8 月末までにサーバ部を実装し、テストトライアルを行うとともに、その結果を反映させた改良を行う。その後、ゼミ外から被験者 80 名を募集し、本実験を行う。本実験は 9 月から 10 月を予定している。

表 1: 実験群

	統制群 1	統制群 2
LT 条件	20	20
LCD 条件	20	20



図 1: Lumisight Table 条件